



成長の源にあるもの

校長 清水 励

2月の和風月名は「如月（きさらぎ）」。

由来には諸説あるようですが、「まだまだ寒い日が続くので重ね着をする」という意味の「衣更着（きさらぎ）」がもとであるという説には納得がいきます。

寒さ続く中、コロナはやや落ち着きを見せ始めましたが、ここ数年流行の無かったインフルエンザの流行が懸念されますので、皆様どうぞ御自愛ください。

2月は私の父母の誕生月。二人とも3年前に立て続けに他界してしまいましたが、いまだに「会いたいなあ…」と思う日が多くあります。

ずば抜けて素晴らしい両親だったかどうかは分かりませんが、愚息の全てを受け入れ、認め、信じてくれていたことを思うと、やはり自分にとっては「大切なかけがえのない存在」であったことは確かです。

みんなほんもの
トマトがねえ
トマトのままでいれば
ほんものなんだよ
トマトをメロンに
みせようとするから
にせものに
なるんだよ
みんなそれぞれに
ほんものなのに
骨を折って
にせものに
なりたがる
みつを

『相田みつを』さんの詩の一つです。子供をありのままに受け止めて、受け入れることの大切さを思い返させてくれる詩です。

私たち大人が、子供に期待して「こんな人になってほしい!」と願うことは、当然のこと。また、子供は知らぬ間に「大人に認められたい」「大人に喜んでもらいたい」ということを頑張ってしまうこともよくあること。それが、子供の本心から「自分のやりたいこと」と重なっていただければいいのですが、実はそうでないこともあるようです。

ですので、私たちは、子供たちに「やらねばならないこと」の不健康なおしきせになっていないか振り返らなければなりません。

不健康なおしきせ…それは「自主性のふりをした強制」のことです。これは、子供たちを「周りの顔色を見て動く人」や「自分のやりたいことが分からない人」、そして、最後には「自分の責任をとれない人」「他者を信頼できない人」に育ててしまうかもしれません。

子育ては、時間がかかったり、残念に思ったりすることもあります。

が、「いつかは理解して、正しく成長してくれる!」ということを信じて働きかけ、待ちたいものです。

待つ
待つてもむだな
ことがある
待つてもだめな
こともある
待つてもむなしき
ことばかり
それでもわたしは
じっと待つ
みつを